

2015 Sound & Vision The Bristol Show 見学レポート

パナソニック(株) アプライアンス社

井谷 哲也

2月20日より22日までの間、英国ブリストルで開催された Sound & Vision Bristol Show を見学する機会に恵まれたので、レポートする。

ブリストルは英国西部に位置し、ロンドンから車でも2時間程度、10世紀ころから貿易で栄えた歴史ある港湾都市である。近郊に国際空港もあり、日本からフランクフルト経由で行く事もでき便利である。

Bristol Show は、英国最大規模で最も歴史のあるオーディオショーで、英国の大手オーディオ専門店チェーンの audio T 社と、専門誌 What Hi-Fi? が主催し、今年で28回目を迎える。ブリストル市内中心地にあるマリオットホテルの地下1階から地上6階までを借り切り開催され、一般的なオーディオショーに加え、展示即売会的な面もあり、それを目当ての来訪者も多い。

出展者数や入場者数は公表されていないが、リストを見ると200社以上が出展し、中には日本になじみのないメーカーも散見される。ちなみに一般入場料は£12。

主催者の話によると、最近のマーケットトレンドを反映し、2ch系の展示が増えてきているとの事。実際に見てみるとハイレゾの普及と、アナログ復権のトレンドが強く感じられた。また、マルチチャンネル系では、Dolby ATMOS Upward-firing スピーカーの展示が目立った。

英国にも熱心なマニアが多い模様で、初日金曜日から最終日まで、多くの人を訪れていたのが印象に残った。



写真1 会場エントランス。



写真2 レセプション

下位階層の展示

地下1階から地上2階までは会議室やボールルームを利用した様々な展示が設置され、終日賑わいを見せていた。エントランスすぐ横の大会議室には、主催者である What Hi-Fi 誌のイベントルームがあり、Dolby ATMOS と Meridian MQA のデモが交互に開催されていた。その周辺には、レコードやケーブル・アクセサリーの即売店や、ショー期間限定のディスカウント即売コーナーなどが並んでおり、それらを目当ての見学者も多かった。



写真3 What Hi-Fi 誌のデモルーム



写真4 What Hi-Fi 誌デモの内容



写真5 景品コーナーも常に人だかり



写真6 レコードの即売コーナー



写真7 期間限定ディスカウント



写真8 アクセサリーの即売コーナー

1階ロビー奥には、大会議場を小さなコマに割ってオープンスペースでの展示コーナーが設置されていた。試聴には向かないが、商品を表示し多くの見学者に見てもらうには好都合なレイアウトで、いくつかのメーカーはここで商品展示を行い、上層階に別途試聴室を構えるという方法を取っていた。

BUFFALO

バッファロー(株)のハイエンドオーディオグレード NAS の N1A/N1Z。英国はネットワークオーディオの先進国でもあり、DLNA を使ったハイレゾオーディオも広く認知されている。

常に多くの見学者が訪れており、日本から出張されていたと思われる説明員の方も忙しそうにされていたのが印象的であった。



写真 9 N1A



写真 10 同黒バージョン

Audio-Technica

アナログプレーヤーを中心に、カートリッジ、ヘッドホン、インイヤーホンなどのラインナップを展示。最近のアナログレコード復権を反映してか、多くの見学者が訪れていた。



写真 11 オーディオテクニカ展示



写真 12 アナログプレーヤー

Astell & Kern

日本でも人気のポータブルプレーヤーメーカー。ハイレゾの DAP はこちらでも興味をもたれている模様で、ずっと試聴している見学者も大勢いた。同社初の据え置き型プレーヤーも展示。



写真 13 人気の AK240



写真 14 同社の新製品、AK500
CD リッピング付きプレーヤー

AR

アメリカの老舗アコースティックリサーチも、DAP や USB DAC を欧州市場に導入。



写真 15 ハイレゾプレーヤー M2



写真 16 USB DAC UA1 £399

1 階の更に奥と地階にはいくつかの大きな会議室があり、Pioneer、YAMAHA、B&W、QUAD といった大手メーカーが大きな試聴室を構えている。とても人気のフロアで、常にデモの待ち行列ができていた。



写真 17 デモ待ちの人々

Pioneer

独自の Upward-firing スピーカー（まもなく発売との事）と同社最上位 AVR,BD-Player を使って Dolby ATMOS のデモが行われていた。注目度が高く、予約制で毎回満員だった模様。

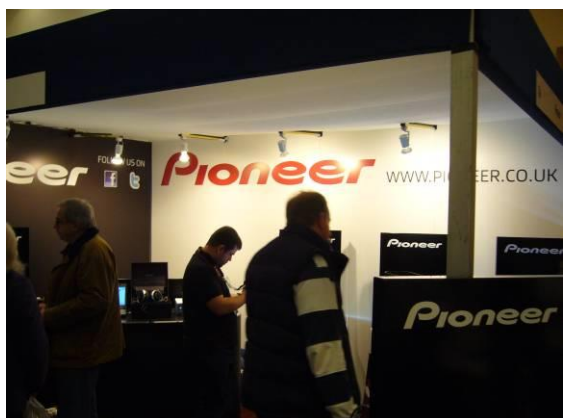


写真 18 オープンコーナーの Pioneer



写真 19 Dolby ATMOS のデモ



写真 20 Dolby ATMOS スピーカー（フロント）



写真 21 Dolby ATMOS スピーカー（リア）

YAMAHA

細長い会議室を上手に利用し、サウンドバー、マイクロコンポ、AVR 上位機種での Dolby ATMOS など盛りだくさんの展示とデモが行われていた。



写真 22 YAMAHA 試聴室



写真 23 Dolby ATMOS のデモコーナー

Q Acoustics

日本ではなじみがないスピーカー専門メーカーで特に小型ブックシェルフ“M4”の評価が高い。

試聴はフロア型の 3050 で上質な音を聴かせていたのが印象に残った。



写真 24 Q Acoustic



写真 25 3050 試聴

QUAD

日本では高級な商品のみ取扱われているが、欧州では、より General な商品も多く提供され、総合オーディオメーカーとして広く認知されている



写真 26 新シリーズ ARTERA



写真 27 コンパクトデジタルアンプ Vena

KEF

Dolby 社共同開発の Upward-firing つきの Reference シリーズで Dolby ATMOS をデモ。同じ部屋でその後で BladeTwo のデモを行っていた。



写真 28 Dolby ATMOS と Blade Two



写真 29 大人気の LS50 も展示

Bowers & Wilkins

大きな部屋を使ってゆったりとした展示とデモ。厚めの内部壁をあつらえて部屋の音調に特に注意が払われているのが特徴的。非常に手馴れた印象をうけた。



写真 30 試聴コーナー



写真 31 CM シリーズを中心に展示

Dynaudio

Lounge と銘打ち、通路からの遮音やレイアウト等、良く考えられた試聴室。新コンセプト Focus XD “The Quantum Leap”を訴求。



写真 32 “The Quantum Leap”デモ



写真 33 Contour、XEO シリーズも展示

Cyrus

日本ではなじみが少ないが、英国では人気ブランドの Cyrus。Class-D AMP をベースとしたコンパクトなオーディオシステムで独自の地位を築いている。新パワーアンプ Stereo200 を発表。



写真 34 エントランス



写真 35 コンパクト筐体が特徴の同社
ラインナップ

Naim Audio

欧州以外にカナダでも人気を誇る英国メーカー。CD プレーヤー、アンプ、スピーカーなどの高級コンポを揃えるが、最近特にストリーミングプレーヤーの評価が高く、日本国内では最近同社の高級ワイヤレススピーカー（Mu-so）が導入されている。

非常に大きなオープンスペースの展示コーナーを2階（テラス階）に設け、フルラインアップを展示。更に上層階では Focal と共同で試聴室を設けている。また同社アンプやストリーミングプレーヤーは、スピーカー専門メーカーのデモに用いられるケースも多く、ショー全体での存在感が目立っていた。



写真 36 最近日本にも上陸した
高級ワイヤレス SP Mu-so



写真 37 Net-Player NDX
アンプ SUPERNAIT 2

Ruark Audio

こちらも英国をベースとするが、高級コンポーネントではなく、卓上ラジオや、Bluetooth スピーカーなどを手がけるジェネラルオーディオメーカー。木をうまく使ったレトロなデザインが特徴的で、ヨーロッパのデパート電気売り場などでよく見かける



写真 38 R2Mk3 Stereo System



写真 39 R7 Audio Video Mount

上層階(3・6階)には、客室を利用した各社の試聴室が並ぶ。大手メーカーは複数の部屋を使い存在感を示している。

Sony

TA-A1ES/HAP-Z1ES/ SS-NA2ES で DSD のデモと、UDA-1、MAP-S1、HAP-S1 など商品のラインアップ展示。



写真 40 TA-A1ES/HAP-Z1ES/ SS-NA2E



写真 41 UDA-1 PC 接続

ONKYO

高級 AV レシーバと、自社 Up-Firing スピーカーを使って、Dolby ATMOS をデモ。



写真 42 サウンドボートと AVR



写真 43 Upward-firing SP

FOSTEX

スピーカーラインアップヘッドホンを展示。



写真 44 スピーカーラインアップ



写真 45 ヘッドホン TH-500

TEAC

同社得意の小型 Reference シリーズを中心にデモと展示を行っていた。

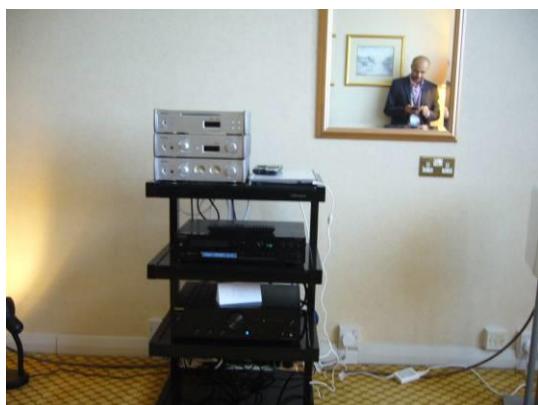


写真 46 501 シリーズ CD-P/NW-P/AMP



写真 47 Reference301 シリーズ

Furutech

電源パーツ、ケーブルコネクター類は英国でも認知度が高い。消磁器やヘッドホンアンプなど様々な商品を展示。



写真 48 30cmLP 対応可能な消磁器



写真 49 ヘッドホンアンプ

ECLIPSE

CES ではタイムドメインスピーカーで 5.1ch のデモを行っていたが、今回は部屋の大きさ制限から 2.1ch でのデモ。

TD712zMK2 を 2 本とサブウーファー TD725SWMK2 を使用。

サブウーファーの上のコップは、振動の少なさをデモする為。



写真 50 2.1ch デモ

Rega

日本ではあまりなじみはないが、英国では高く評価されている総合メーカー。オーソドックスな手法でターンテーブルからスピーカーまでを揃え、ファンも多い。



写真 51 アナログプレーヤー・アンプ



写真 52 スピーカーラインナップ

ROKSAN

ここも日本ではあまりなじみはないが、雑誌評価も高く店頭でもよくみかける。



写真 53 K3 シリーズ



写真 54 Project との共同試聴室

Monitor Audio

日本でも有名な同社は2部屋構えて、片方で New Gold シリーズを、もう一部屋では天井スピーカーで Dolby ATMOS をデモ。New Gold シリーズは非常にバランスのいい音を聞かせていた。



写真 55 New Gold シリーズ



写真 56 天井スピーカーを使った Dolby ATMOS

TANNOY

同社は1階にオープン展示でラインアップを展示し、上層階に試聴室を構えて音デモ。



写真 57 Revolution XT シリーズのデモ



写真 58 オープン展示コーナーの商品群

Kudos (LINN)

Kudos は英国のスピーカーメーカー。同社新製品 Titan 808 で Linn EXACT サポートを表明。

Linn は単独ブースを構えず。(関係者によると同社の方針とか・・・) 見かけたのはこのみ。



写真 59 Titan 808 EXACT 対応スピーカー



写真 60 Titan808 ドライブする Linn 商品群

Spendor

試聴室を3部屋使い、人気の Classic、最新の A シリーズ、D シリーズの試聴を設けていた。



写真 61 Classic シリーズ



写真 62 A-3 の試聴コーナー

Harbeth

日本にファンも多い老舗の同社も2部屋使用。HL5とPE3をデモ。



写真 63 HL5Plus のデモ



写真 64 P3ESR

Clear Audio

日本にも輸入されている高級レコードプレーヤーメーカー



写真 65 日本でも見かける Concept



写真 66 高級機 Master Innovation
リニアトラッキングアーム TT-2

Pro-Ject

ターンテーブル最大手の同社、日本に入っていない入門機も含めてフルラインナップ展示。自社ブースの他にも、他メーカーとの共同ブースを構えるなど存在感は大きい。



写真 67 試聴コーナー



写真 68 Pro-Ject ラインアップ

最後に Technics

1階オープンコーナーでは R1/C700 両シリーズの展示に加え、2月より英、独で始まるハイレゾ・ダウンローサービサイト Technics TRACKS のパネルを展示。

上層階では C700 シリーズをデモ。英国でも Technics のファンは多く、好評に迎えられていた。



写真 69 Technics TRACKS パネル



写真 70 R1 シリーズ展示



写真 71 C700 シリーズを DLNA でデモ



写真 72 多くの方に試聴いただきました

著者プロフィール



井谷 哲也（いたに てつや）

1980 年松下電器産業（現パナソニック）株式会社入社。

CD プレーヤー、レーザーディスクプレーヤー、DVD プレーヤー、BD レコーダー等の商品開発を担当。

現職：パナソニック(株)、アプライアンス社、ホームエンターテインメント事業部、テクニクス事業推進室、チーフエンジニア。